



# 「こんにちは 市長です」

8月15日号

朝起きると体温計、左の脇に最新式？の体温計を挟む。「市役所で最初のコロナ感染は市長。接遇が多いからです」と職員に決めつけられた。それで体温計なのである。昔のは水銀計、ほどほどの時間って何分か分からないけど「もう、いっか」と脇から抜き出す。傾合いが難しい。測り終わると二、三度振って元に戻した。今はデジタルでピピッーと合図がある。初めて使ってみたが至極便利である。とはいえ、一度では納得しかねる。少なくとも二度は測る。機械だって気分で動くことがあるからだ。いい数値がでたところで納得、笑顔で採用である。ついでに、「左の脇と右の脇ではどちらが正確な体温なのか」研究？を進めてみた。同じだと思っていたが、それが違うんです。左の脇「36・4」右の脇「36・3」、コロナのおかげで新発見ができたのである。「それは君！君が異常体質なだけなんだ」。お医者さんに言われても新発見である。

先日、お疲れ感があったのでなじみのお医者さんに飛び込んだ。看護師さん「血圧測っておきましょう」と左腕に布を巻き付けてシュシュッと圧をかける。「かなり高いですね」「急いで来たから？ もう一度やりますか」10ポイント下がった。診察終わって「もう一度」と3回目。また10ポイント下がったのである。家に帰って自前の血圧計でスイッチON、何と「139-80」正常値ではないか。即刻、「これが正しい」と納得したのである。

コロナは高齢者に極めて冷たいと聞く。だから、体温がどうの、血圧がどうのと気を遣うのである。「1兆3千億円のGotoトラブル行って」なんて政府が笛を吹いていても、それは下界の話とその手には乗らない。高齢者が達観しているからコロナ感染の話題は下火？になっているのだ。8月4日(火)の朝日新聞、1・2・3面にコロナの記事がない。ニュースからコロナが消えるまで、高齢者ががんばれ!! (8/4記)